

素根輝選手 東京オリンピック柔道女子78kg 超級代表に内定

「3倍努力」が実を結ぶ

久留米市出身の素根輝選手が、オリンピック代表の切符を勝ち取りました。柔道選手では内定第1号。来たる東京オリンピックへの出場という快挙を成し遂げた、市ゆかりの素根選手のこれまでの道のりをたどります。

◎広報戦略課(☎0942・309119、FAX0942・309702)



グランドスラム大阪の決勝戦では、世界ランク1位のイダリス・オルティス選手と対戦しました。延長の末に、大内刈りで技ありを奪い優勝。一瞬のチャンスを逃さず、磨き上げてきた得意技で試合を決めました(写真:西日本新聞社提供)

世界ランク1位を撃破

素根選手は8月の世界選手権で優勝。11月24日、東京五輪の代表選考の鍵となるグランドスラム大阪の決勝戦で、世界ランク1位、キューバのオルティス選手から技ありを奪い見事優勝。代表内定を獲得しました。

それを楽しんで頑張れ」と激励しました。

目指せ金メダル

平成28年、南筑高校に進学。全日本カデの2連覇を達成し、1年生で全日本ジュニア優勝。全国高校選手権個人戦で、準決勝以外全て一本勝ちで優勝。5人制勝ち抜き戦の金鷲旗では、決勝戦を5人抜きで優勝という歴史的快挙を成し遂げました。

座右の銘は「3倍努力」。7歳から柔道を始め、父親や兄を相手に稽古に励みました。田主丸中学校時代には全国大会2連覇。17歳以下が出場する全日本カデ体重別選手権では、高校生を破って優勝し、世界カデの代表に。全試合一本勝ちで優勝しました。同校顧問の黒岩浩隆さんは「3倍努力を短期間する人はいるが、輝はそれを継続してきた。プレッシャーは試合に出られる者しか感じられない。」

3年生になると、それまで勝てなかった朝比奈沙羅選手に勝利。全日本選抜体重別2連覇、全日本選手権でも朝比奈選手を破り優勝を果たします。同校顧問の松尾浩一さんは「強くなりたいたいという気持ちに率直で、目標の高さも人の3倍。ここからが勝負。金メダルを目指してほしい」と期待を込めます。

素根選手の主な柔道戦績

2007年	7歳から柔道を始める
2012年	全国小学生学年別柔道大会 優勝
2013年	田主丸中学校に進学
2014年	全国中学柔道大会個人戦 優勝
2015年	全日本カデ体重別選手権 優勝 世界カデ柔道選手権大会 優勝 全国中学校柔道大会個人戦 優勝 " 団体戦 優勝
2016年	南筑高校に進学 全日本カデ体重別選手権 優勝 全日本ジュニア柔道選手権 優勝
2017年	全国高校選手権個人戦 優勝 全日本選抜柔道体重別選手権 優勝 金鷲旗高校柔道大会 優勝 世界ジュニア柔道選手権 優勝 世界選手権 団体 優勝
2018年	全日本選抜柔道体重別選手権 優勝 金鷲旗高校柔道大会 優勝 アジア大会 優勝 世界選手権団体 優勝
2019年	環太平洋大学に進学 全日本選抜柔道体重別選手権 優勝 世界選手権個人 優勝 グランドスラム大阪 優勝

民生委員・児童委員一斉改選

身近な相談役 新しい担当委員の確認を

558人が就任

民生委員・児童委員は、住民の立場で、介護や子育て、経済的困窮など生活上の困り事へ支援を行います。12月3日に石橋文化センターで就任退任式が行われました。179人が任期を終え退任。再任も含め558人が就任しました。これからの活動に向け、田主丸校区を担当す

る山田三男さんが、「市や関係機関などと協力し、住民の支えとなるよう活動していきます」と決意を述べました。担当委員を確認したいときは、地域福祉課に問い合わせてください。

地域を見守るボランティア

民生委員・児童委員は、国から委嘱された無償のボランティアです。地域から孤立しがちな一人暮らしの高齢者宅などを訪問。手助けが必要ないかの声掛けや、登下校時のあいさつ活動などを行っています。一部の委員は、学校などと協力して子育て世帯への支援を専門に行う主任児童委員として活動します。子育ての悩みを他の親と共有できるサロンを開くなど、気軽に相談できる場をつくっています。

専門機関への「つなぎ役」

地域の見守り役であると同時に、適切な専門機関にスムーズにつなぐ役割も担っています。

皆さんの協力が鍵に
皆さんの周りでごんなことはありませんか。

■最近見掛けない人がいる
■新聞が何日分もポストにたまっている

■怒鳴り声や子どもが激しく泣く声が続く
■何日も続けて同じ服を着ている子どもがいる

自分の困り事だけでなく、地域で気になることも相談してみてください。皆さんの気付きが困っている住民を早期に救うことにつながります。

◎地域福祉課(☎0942・309174、FAX0942・309752)

保護者の味方になることを大切に

■佐田典子さん 合川校区・主任児童委員



平成10年から主任児童委員として活動しています。子どもが好きということもありますが、暗い表情だった子どもがだんだん明るくなるのがうれしくて。その時関わった子どもが、今ではお母さんになって声を掛けてくれることもあります。

困っている子どもを救うには、まずは保護者の味方になって、悩みを共有して一緒に考えることを大切にしています。「近所の子育ての先輩」くらいの気持ちで、気軽に相談してください。

就任退任式の様子。今期の委員を代表して山田三男さんが委嘱状を受け取りました

